

# 日本ペスタロッチー・フレーベル学会 第30回 大会 プログラム

2012年 9月15日(土)・16日(日)  
玉川大学

## I 日程

9月15日(土)		9月16日(日)	
全国理事会	10:30~12:00	受付開始	9:00~
受付開始	12:30~	自由研究発表	9:30~12:45
自由研究発表	13:00~16:15	昼休憩	12:45~13:30
総会	16:30~17:15	特別講演	13:30~14:30
懇親会	17:30~19:30	シンポジウム	14:30~16:30

## II 会場・発表時間

全国理事会	大学研究室棟 B101 会議室
理事控え室	大学研究室棟 B101 会議室
自由研究発表	大学研究室棟 B104 会議室
会員控え室	大学研究室棟 B107 会議室
総会・特別講演・シンポジウム	大学研究室棟 B104 会議室
懇親会	朔風館食堂

【発表時間】自由研究発表は1人25分、質疑応答5分です。

## III 大会参加費・懇親会費

大会参加費は、一般会員4,000円、学生会員2,000円、懇親会費は、一律5,000円です。  
大会当日、受付会場にてお支払い下さい。

## IV 昼食について

会場から徒歩3分程度の学生食堂（朔風館食堂）の営業が行われますので、そちらをご利用ください。（大学周辺には、コンビニエンスストアもございます。）

## V 大会事務局

日本ペスタロッチー・フレーベル学会 第30回大会 実行委員会

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1 玉川大学 大学研究室棟404 山口圭介研究室  
(E-mail:k.y.414[カード]ットワット414]@edu.tamagawa.ac.jp 電話:042-739-8019〔直通〕)

第1日 9月15日(土)

〈自由研究発表〉 大学研究室棟B104会議室(13:00~16:15)

司会 鈴木由美子(広島大学)  
小川 哲哉(茨城大学)

13:00~13:30

ヘルバルトの子ども観と家庭生活

—— 彼はペスタロッチーの子ども観に何を学んだか ——

駒木根 剛(近畿大学九州短期大学・町田福祉保育専門学校)

13:30~14:00

戦時下「国民保育」論の思想と構造

—— 保育問題研究会編『国民保育のために』(1942年)を手がかりとして

浅野 俊和(中部学院大学)

14:00~14:30

1930年代におけるペスタロッチと日本

—— 長田新・福島政雄・山下徳治 ——

寺岡 聖豪(福岡教育大学)

〈休憩〉

14:45~15:15

J.-J.Rousseau 生誕300年に関わって

—— ルソー・ペスタロッチ・フレーベルの幼児教育思想を中心に ——

坂入 明(東京家政大学)

15:15~15:45

長田新の教育思想(6) —— 『原爆の子』の61年 ——

長田 五郎(横浜市立大学 名誉教授)

15:45~16:15

総括討議

〈休憩〉

〈総会〉 大学研究室棟B104会議室(16:30~17:15)

〈会場移動〉

〈懇親会〉 朔風館食堂(17:30~19:30)

第2日 9月16日(日)

〈自由研究発表〉 大学研究室棟B104会議室(9:30~12:45)

司会 豊泉 清浩(群馬大学)  
田岡由美子(龍谷大学短期大学部)

9:30~10:00

米国教育使節団からの「本の贈り物」(Gift of Books)の選択基準  
—— 絵本を中心に ——

細川 七重(関西学院大学大学院)

10:00~10:30

AWOキンダーガルテン「フレーベルハウス」の教育実践  
—— くまグループを中心に ——

篠原いくよ(大阪成蹊短期大学)

10:30~11:00

幼稚園における子どもたちのための庭 —— フレーベルの足跡を訪ねて ——

藤井恵美子(兵庫大学短期大学部)

石川 道夫(藤田保健衛生大学)

〈休憩〉

11:15~11:45

カリキュラムマネジメントの観点からの倉橋保育方法論解釈  
—— 目標・方法の連関性に注目して ——

横松 友義(岡山大学大学院)

11:45~12:15

フリードリッヒ・フレーベルの教育遊具の研究(その3)  
—— 「作業具」をめぐって ——

荘司 泰弘(常磐会学園大学)

12:15~12:45

総括討議

〈休憩〉

〈特別講演〉 大学研究室棟B104会議室(13:30~14:30)

〈休憩〉

〈シンポジウム〉 大学研究室棟B104会議室(14:30~16:30)

## 〈 特 別 講 演 〉

- 題 目 「ドイツにおけるフリードリヒ・フレーベルの今日的意義」  
“ Zur Aktualität Friedrich Fröbels in Deutschland ”
- 講演者 カーステン・ケンクリース (イェナ大学)  
Jun.-Prof. Dr. Karsten Kenkries (Universität Jena)
- 通 訳 佐久間 裕之 (玉川大学)
- 司会者 石橋 哲成 (玉川大学)

### 〈 趣 旨 〉

フレーベルは1799年10月、イェナ大学哲学科の学生として初めての大学生活を経験しました。その時フレーベルは17歳6ヶ月でした。1801年には、やむなく大学を去らねばならなくなりましたが、フレーベルは当時を振り返り「イェナ滞在は私に多くのものを与えてくれました…すでに私は、多様性の中の統一とか、力と生命の親族関係とか、物質の中の生命とか、諸力と生の法則とかを探知していたのです」と書いています。フレーベルの教育思想の根本はすでにイェナ時代に芽生えていたと思われます。

さて、フレーベル研究を専門にされているわけではありませんが、イェナ大学のケンクリース氏が日本学術振興会の「外国人招へい研究者」として来日し、現在玉川大学で日独教育交流をテーマに研究をされています。今回、日本ペスタロッチー・フレーベル学会第30回大会が玉川大学で開催されることになりましたので、ケンクリース氏にドイツにおけるフレーベル研究の現状についての講演をお願いしました。

なお、皆様には、イェナで講演を聴いているような気分になっていただくために、講演の初めに、イェナ大学におけるフレーベルの足跡をスライドで紹介する予定です。

## 〈 シンポジウム 〉

- 題 目 過去30年の日本P-F学会の歩みを振り返り、  
今後、本学会はどうあるべきかを考える
- 提 案 者 ペスタロッチー研究者の立場から 椋木 香子 (宮崎学園短期大学)  
フレーベル研究者の立場から 勝山 吉章 (福岡大学)  
本学会会長の立場から 浜田 栄夫 (山陽学園大学)
- 司会者 石橋 哲成 (玉川大学)

### 〈 趣 旨 〉

本学会が産声をあげたのは、1982年8月末、東北大学教育学部において日本教育学会第41回大会が開催された時のことであり、発起人となられた先生方は、荘司雅子教授(当時、聖和大学)、長尾十三二教授(当時、立教大学)、岩崎次男教授(当時、埼玉大学)、藤井敏彦教授(当時、広島大学)、そして前原寿(当時、東北大学)の5名でありました。

1982年という年は、幼児教育の父フレーベルの生誕200年にあたる年であり、これを記念して、彼の生国ドイツのイェナ大学では記念式典が行われましたし、日本においても、小原國芳・荘司雅子監修による『フレーベル全集』全五巻の翻訳本が玉川大学出版部より出版されたことは、周知のとおりです。

あれから30年が過ぎ、発起人であった5名の先生方のうち3名の先生方(荘司先生、藤井先生、前原先生)がすでに逝去され、否応なしに時の流れを認めざるを得ません。今後、本学会はどうあるべきなのでしょう？ どのような方向へ向かうべきなのでしょう？

会場には、本学会発足時代から会員であった方々も大勢おられますが、その間に会員になられた若い方々も大勢おられます。私どもは、学会創設30年のこの節目にあたり、過去30年の学会の歩みを振り返り、今後本学会はどうあるべきなのか、ともに考えてみたいと思います。そしてここから、また学会としての新しい第一歩を踏み出すことができれば、と考えています。

